

キイロヤマトンボ

Macromia daimoji

兵庫県：A

環境省：準絶滅危惧(NT)

種の概要

腹長52～61mm、後翅長44～52mm程度。胸部は金属光沢をもつ緑色と黄色の条線有し、腹部には黄色の斑紋を有する。腹部第3節の黄斑が途中で切れて上下に分断されているのが特徴。砂地が多く緩やかな流れの河川中流に生息し、幼虫は砂地に浅く潜っている。成虫は5月～8月に見られる。



写真提供：青木典司

国内分布

本州、四国、九州

県内分布記録

神戸市、豊岡市、赤穂市、西脇市、川西市、三田市、丹波篠山市、丹波市、朝来市、猪名川町、多可町、佐用町

選定理由

人為性		特殊生息環境	学術性		
個体数激減	生息環境激変		分布が極限	分布の限界	希少
○	○	○	○		○

特記事項

現在までのところ、県内で報告のあった河川系は5つで、そのうち毎年成虫を確認できているのは1つだけである。そこでも1日に1、2頭前後の確認となっており、減少傾向が著しい。他の3カ所は大規模な河川改修が行われた後、生息状況が不明である。北部の1カ所は見た目の環境に特に変化が見られないが最近では成虫を確認できていない。幼虫で見つかる例が多いが、幼虫の採集は簡単ではない。県内絶滅の可能性は非常に高まっている。

保護上の留意点

中・下流部の砂泥の堆積を妨げないような、上流部の河川管理が求められる。